

平成26年度 事業報告

西方保育園

- 1. 保育開所総日数 293日
- 2. 開所時間 7:00~19:00
- 3. 給食総日数 249日
- 4. 保育児童数

月 年齢	0才	1才	2才	3才	4才	5才	計	備 考	
								入園	退園
4月	3	14	16	24	25	26	108		
5月	5	15	16	25	25	26	112	0歳2人 1歳1人 3歳1人	
6月	6	16	16	25	25	26	114	0歳1人 1歳1人	
7月	6	16	15	25	25	26	113		2歳1人
8月	6	16	15	25	25	26	113		
9月	8	16	14	25	25	26	114	0歳2人	2歳1人
10月	8	16	14	25	25	26	114		
11月	8	16	14	25	25	26	114		
12月	9	16	14	25	25	26	115	0歳1人	
1月	10	16	14	25	25	26	116	0歳1人	
2月	10	16	14	25	25	26	116		
3月	10	15	14	25	25	26	115		1歳1人
計	89	188	176	299	300	312	1,364	年度途中入退園園児数 (延べ人数) 入園 10人 退園 3人	
月平均	7	16	15	25	25	26	114		
菊川市	89	188	176	299	300	312	1,364		
	0	0	0	0	0	0	0		
	0	0	0	0	0	0	0		

## 西方保育園 平成26年度事業報告

保育児童数表のように、0歳児3名 1歳児14名 2歳児16名 3歳児24名 4歳児25名 5歳児26名のスタートでした。0歳児は年度当初から3名在籍しており主任保育士の専任加算が4月から支給されました。園児は定員90名のところ、平均114名の在籍で約127%の超過をしてしまいました。嘗てのような1,2歳合同の1部屋保育はもうできません。それに伴い恒常的にホールを当分5歳児の保育室として使用することになりそうです。この結果、ホールがないことにより、今年度も雨天等、園庭が使えない時、保育に支障を来しました。毎年計上している全面改築の基本設計を来年度は実施し改築の計画を立てたいです。平成29年には、耐震補強後10年を経過するので、建物の処分を円滑に図れる時期になります。但し、建設業界は、資材の高騰と人手不足で、保育所の建設に関して入札不調が続いていると聞いています。早めに図面を引いて準備したいと考えています。

この定員超過による運営費増の部分が職員加配や修繕費の捻出となり、結果的に手厚い保育を生んでいます。厚労省は定員運営を基本としていますが、今の状態で定員運営を行えば保育士を減らさなければならず、運営上はかなり、厳しくなると予想されます。

今年度は途中入園児が多く、その分保育士を年度当初から雇用しました。保護者の育休明けが主な原因です。このような途中入園は今後も続くと予想されます。課題となっている保育士確保問題ですが、今年度は6ヶ月分の保育士確保の補助金ができました。更に保育士の処遇改善として、平成25年度に続き一時金を支給しました。

### 平成26年度 固定資産購入

遊具メーカー ボーネルンドの特別キャンペーンで3歳児未満児の屋外用移動遊具を購入しました。園庭に設置して乳幼児に大変好評です。職員の研修で別の遊具メーカー アネビー社のショールームに見学に行き、バランスボードと言う室内用運動遊具を購入しました。園児のバランス向上に役立っています。

### 今後の見通し

今年度はついに定員の20%以上を超えて、運営、保育を行ってしまいました。(年平均在園児数は127%) 2年連続20%を越えられないので、年度当初の入園予定園児以外は、27年度の途中入園児は退園児がいなかぎり、受け入れられません。

新制度になり、保育士の処遇改善を始めとするキャリアパス等導入が言われていますが、市町単位の地方行政ではその執行に遅れが目立ち年度当初から予算等確定していないのが現状です。認定こども園(新制度における)化を国が目指しているのは、大儀の面からは充分理解できるのですが、経営上の不安が払拭されないかぎり、なかなか移行できないのが現実ではないでしょうか。

待機児童問題ばかりが話題になっていますが、地方では定員割れによる経営問題が既に発生しています。改築に関しても、既存の老朽化による改築から次世代を睨んだ、付加価値のある改築を考えて計画していかないと、行政もなかなか実行に移せないと考えています。